

LOBO 調査

早期景気観測

5月 日商調査日 5月16日～22日
 当所調査日 5月10日～23日

LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、商工振興員の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

日商調査

5月の全産業DI ▲17・1
 (前月比 ▲0・4ポイント悪化)

○中小企業の景況感

10連休となったゴールデンウィークの好調なインバウンドを含む観光需要が全体を牽引したほか、堅調な改元商戦の恩恵により、宿泊・飲食業や観光関連業を中心とするサービス業、小売業の業況感が改善した。

○マイナス要因

半導体や産業用機械、自動車関連の不振が続いているほか、10連休により営業日が減少した建設業の売上が悪化した。

○先行き

先行き見通しDIが▲19・6(前月比▲2・5ポイント)悪化。

不透明感が強く、慎重な見方は変わらない。

○課題

深刻な人手不足の影響拡大や根強い消費者の節約志向、原材料費の高止まりが依然として中小企業の足かせとなっており、業況改善に向けた動きは力強さを欠く。

力強さを欠く。

【関東ブロックの業況についてのコメント】

改元の祝賀ムードもあり、連休は例年以上の繁忙期となり売上が大きく増加した。総菜や弁当に加え、帰宅客の土産需要も追い風だった(食料品製造業)。

消費者の節約志向は強く、客単価は下がっている。一方で改元に伴い、新元号の『令和』という文字を入れた和菓子を売り出したところ、好調な売れ行きだった(食料品小売業)。

初の10連休となった今年のゴールデンウィークの対応に不安があったが、来店客数は大幅に増加し、嬉しい悲鳴となった。しかし、連休中は十分な従業員数を確保できず、対応しきれない客も出てしまった(飲食業)。

【三所調査】

【全体平均DIは悪化】

全体平均DIは▲9・9ポイントで、前月に比べ▲5・4ポイントの悪化。項目別では、前月と比較し仕入先行きが▲9・3ポイント、資金先行きが▲10・6ポイント悪化した。

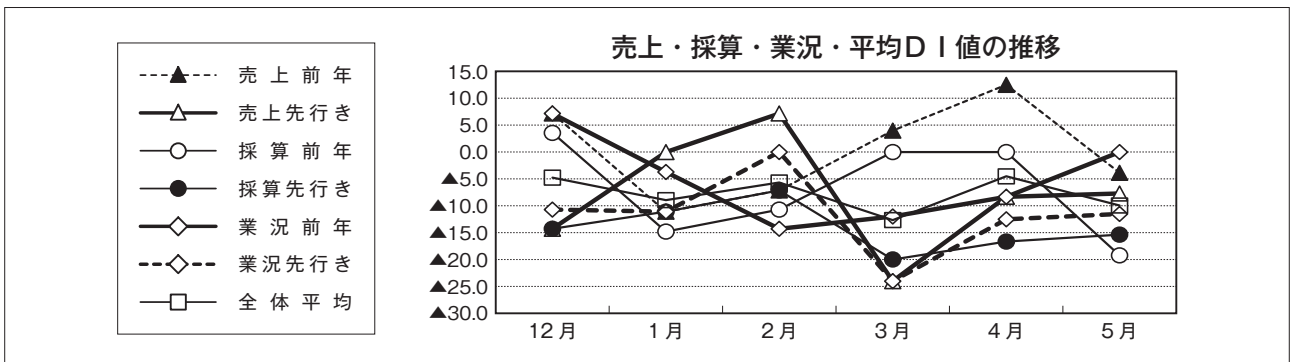
寄せられたコメントには「ゴールデンウィークの影響により売り上げが減少した(染色業)」、「ペーパーレス化が進み、前年と比較し売り上げは減少している(紙製品卸売業)」、「例年に比べゴールデンウィークは好調だった。6月も期待したい(楽器販売業)」という声が聞かれた。

(全産業)

水戸商工会議所商工振興員LOBO調査(DI値推移)

(サンプル数40社)

項目	平成30年		平成31年				令和元年
	5月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
売上前年	▲10.3	7.1	▲11.1	▲7.1	4.0	12.5	▲3.8
売上先行き	▲6.9	▲14.3	0.0	7.1	▲24.0	▲8.3	▲7.7
採算前年	▲10.3	3.6	▲14.8	▲10.7	0.0	0.0	▲19.2
採算先行き	▲3.4	▲14.3	▲11.1	▲7.1	▲20.0	▲16.7	▲15.4
仕入前年	▲27.6	▲32.1	▲37.0	▲32.1	▲56.0	▲25.0	▲42.3
仕入先行き	▲37.9	▲35.7	▲44.4	▲39.3	▲48.0	▲29.2	▲38.5
社員前年	27.6	21.4	29.6	14.3	20.0	25.0	26.9
社員先行き	17.2	25.0	25.9	25.0	32.0	20.8	26.9
業況前年	▲6.9	7.1	▲3.7	▲14.3	▲12.0	▲8.3	0.0
業況先行き	▲10.3	▲10.7	▲11.1	0.0	▲24.0	▲12.5	▲11.5
資金前年	▲10.3	0.0	▲18.5	▲7.1	▲8.0	0.0	▲11.5
資金先行き	▲17.2	▲14.3	▲11.1	3.6	▲16.0	▲12.5	▲23.1
全体平均	▲8.0	▲4.8	▲9.0	▲5.7	▲12.7	▲4.5	▲9.9



※DI値(景況判断指数) = (増加・好転などの回答数 - 減少・悪化などの回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりや意味するもの。